

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成19年11月28日)

事業コード	H19 - 建 - 終 - 2		区 分	国庫補助 県単独
事業名	国道特殊改良一種事業		部 局 課 室 名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築事業(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2493
路線名等	国道108号		担 当 課 長 名	加藤 修平
箇所名	由利本荘市 平根バイパス		担 当 者 名	主幹(兼)班長 伊藤 茂
総合計画との 関連	政策コード	U	政 策 名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	3	施 策 名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備
	指標コード	2	施策目標(指標)名	県管理国道の整備推進

1. 事業の概要

事業の 背景及び 目的	本路線は、宮城県石巻市を起点とし、秋田県湯沢市を経て由利本荘市に至る日本海側と太平洋側を横断的に結び、経済・文化交流を支える広域幹線道路である。しかし、当該箇所は人家連担で歩道の未整備に加え線形不良(Rmin=60m)・幅員狭小(Wmin=4.0m)が連続し、大型車のすれ違いや冬期交通の安全確保に支障をきたしていた。 そのため、交通隘路区間の解消、冬期末改良区間の解消、道路の防災対策・危機管理の充実(第2次緊急輸送路)のため道路整備を行ったものである。					
事業期間	前回 H13年 ~ H17年 終了 H13年 ~ H16年	総事業費	前回 12.0億円 終了 12.1億円	国庫補助率	0.5	
事業規模	前回 延長L = 2,430m 幅員W = 6.5(12.0)m 終了 延長L = 2,430m 幅員W = 6.5(12.0)m					
事業効果の 要因変化及び 発現状況		前回評価計画	最終	増減 -	理由	
	事業費	1,200,000	1,213,000	13,000		
	経内 費 用 内 訳	工事	765,870	809,987	44,117	現道部の改良が必要となったため。
		用補	304,000	284,609	-19,391	
		その他	130,130	118,404	-11,726	
	事業内容	調査・設計 用地買収補償 改良舗装工 橋梁工	調査・設計 用地買収補償 改良舗装工 橋梁工			
	コスト・効果対比較	費用便益変化の主な要因(前回評価 終了)				
最終コスト 終了C / 前回評価C = (1.01) 費用便益 前回評価B / C = (2.30) 終了B / C = (2.19)	【便益】 事業費の増額に伴い、費用便益が下がった。 【費用】 現道拡幅区間において、現道部の強度が不足しており、路床の改良が必要となったため、工事費が増額となった。					
目標 達成率	指標名	県管理国道改良率				
	指標式	改良率(改良済延長/実延長)				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 (無)	
	目標値a	90.8%		データ等の出典	あきた21総合計画H17目標 H17道路現況調書	
	実績値b	91.4%				
	達成率b/a	100.7%		把握の時期	平成19年10月	
指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 データの出典含む						
自然環境の 変化	特になし					
社会経済 情勢の変化	平成17年3月22日に本荘市外7町が合併し、由利本荘市となった。					
事業終了後の 問題点及び管理・ 利用状況	現在は県が維持管理しているが、路肩の除草に関しては、周辺部落と調整し、地元の協力を得ることが必要と思われる。 歩道を整備したことにより、歩行者の安全性が確保された。					

住民満足度等の状況 (事業終了後)	満足度を把握した対象 (受益者) 一般県民 (時期: 平成19年 8月) 満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (具体的に) 満足度の状況 当該区間を利用する地域住民から、道路整備により安全に走行できるようになり、特に冬期間の安全や通勤・通学時の歩行者の安全が確保された旨の意見があった。
上位計画での位置付け	あきた21総合計画において「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」の位置付けあり。
関連プロジェクト等	地域振興プロジェクトである「鳥海山を中心とした周遊型観光圏の形成を推進する道路網の整備」の位置づけあり。
前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留又は中止 指摘事項
	指摘事項への対応

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	住民満足度の状況 (A) B C 住民アンケートにおいて、安全な交通が確保されたという意見が多く出されていた。さらに、満足・やや満足との意見が87%であった。	(A)
	事業の効果 (A) 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満	B
	当該事業は計画通り進捗し、あきた21総合計画の 県道改良率目標を上回った。	C
効率性	事業の経済性の妥当性 (A) B C B/Cが2.19となっており、事業の経済性においては妥当である。	(A)
	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし	B
	-	C
総合評価	(A) (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い) 計画に沿って着実に事業が進捗し、地域住民の交通安全確保が図られており、住民満足度等からも成果が認められることから、事業は妥当である。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業開始前の予備調査や設計段階で現場の把握や、実施・詳細設計における適正な事業費の把握に努め、コスト縮減に関しても積極的な取り組みをし、効率的な事業執行を図る。
--

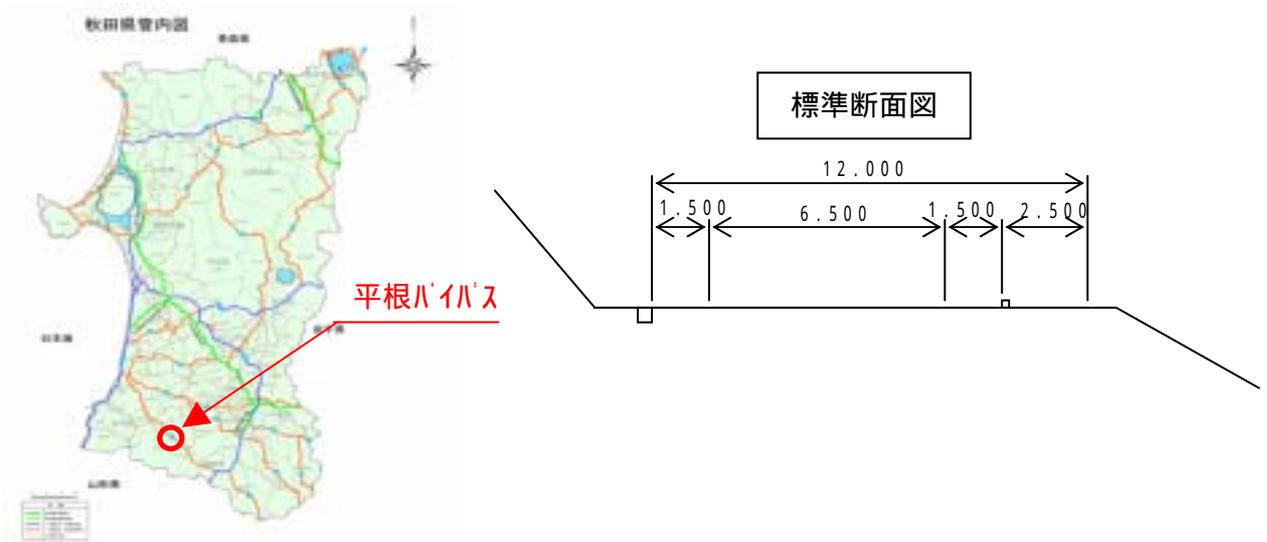
4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	

国道108号 平根バイパス



整備前



整備後

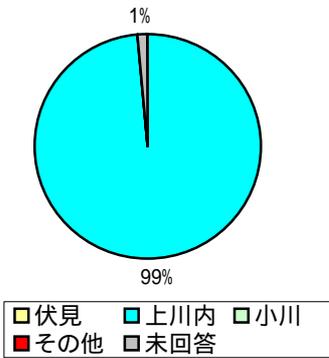
道路整備の効果に関するアンケート結果

国道108号 平根バイパス

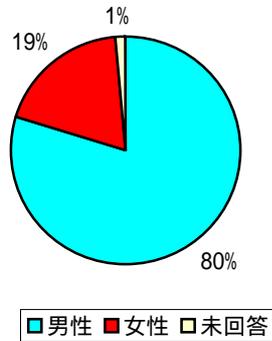
配布枚数: 105 枚
回収枚数: 79 枚 (回収率 75.2%)

回答者の状況

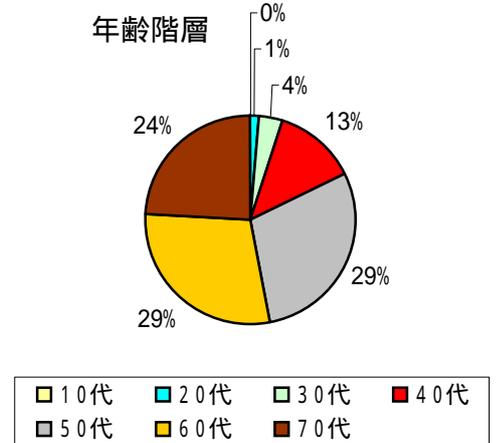
住居地区



性別



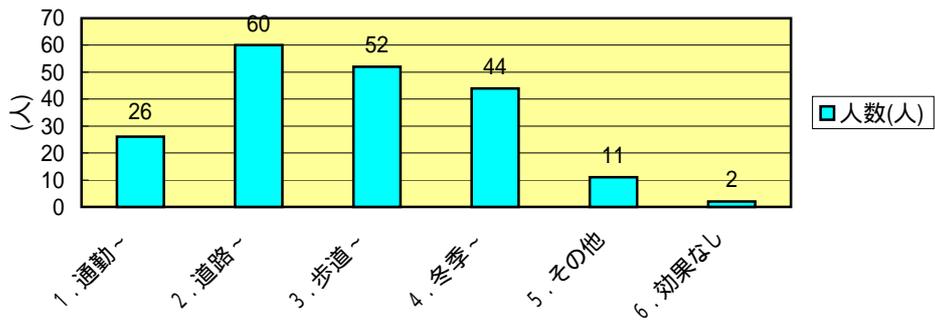
年齢階層



調査結果

(設問1) 「国道108号 平根バイパス」の道路整備工事が完成したことにより、どのような効果がありましたか。 複数選択も可。

1. 通勤、通学等の時間が短縮された。
2. 道路が広くなったので、安全に走行できるようになった。
3. 歩道が整備されて、通学通勤の安全が確保された。
4. 冬期交通の安全が確保された。
5. その他
6. 効果なし



(設問2) あなたは「国道108号 平根バイパス」の道路整備に満足していますか。

